



第135回 卒業証書授与式②

昨日の続きです。卒業証書授与式の山口大学教育学部の鷹岡学部長の告辞とPTAの椋木副会長の祝辞です。祝辞は、PTA重見会長が所用のため、椋木副会長に代読していただきました。

告辞（中学校という新たな舞台へ飛び立つ卒業生へのエール）

日々、春の訪れの感じられる今日この頃となりました。67名の卒業生のみなさん、本日はご卒業おめでとうございます。さて、今日の良き日の門出に当たり、卒業生のみなさんに、私からのメッセージを送らせていただきます。

先ほどの校長先生の式辞では「一生懸命に勉強することの意味」についてお話がありました。ここでは、引き続き、「みなさんは、なぜ学ぶのか？どうして勉強するのか？」という「問い」について考えてみましょう。

この「問い」、学ぶことや勉強することの意味について、その答えは一つではありません。また、正しい答えが一つということもありません。先ほど校長先生からは、「自分の人生に喜びを見つけるため」そして「周りの人の人生に喜びをもたらすため」というお考えをいただきました。「他者の人生に喜びをもたらす」という視点は、私自身、校長先生のお話をお聞きして非常に勉強になりました。さらに、本やWebページをめくってみると、「いかに生きていくべきかを学ぶため」、「自分の世界を広げるため」、「勉強で自分の窓を開けるため」、「広い視野でモノゴトを考えるため」、「自分の言葉で表現するため」、「新しいことを身につける方法を学ぶため」など人生の先輩たちが、これまでの経験や体験を踏まえて自分なりの考えを述べていることが分かります。

それでは、鷹岡自身はどう捉えているのか。私自身は、「なりたい自分」や「やりたいこと」を見つけるため、また、そのことを成し遂げるための基礎的な力や学び方を身につけておくために、「学ぶこと」、「勉強すること」が必要だと考えています。

附属山口小学校では、長きにわたり「ひびき合い」を大切に、学びの楽しさを実感できる学校づくりを推進してきています。そこでは、国語や算数などの教科の学びだけでなく、聞く力を身につけるフリースークや学ぶことの価値を意識したり、その価値を他の場面で活用することを学ぶ「創る科」での時間も通して、「なりたい自分」や「やりたいこと」を見つけ、達成するために必要な基礎となる力を磨いてきています。

振り返ってみてください。フリースークでは、低学年の頃は、テーマを保護者のみなさんと一緒に考えていたかもしれませんが、高学年になるにつれて、仲間に聞いてみたいテーマや問いがみなさん自身で浮かぶようになってきたのではないのでしょうか。また、仲間のテーマに対する説明を聞きながら、どのようにフリースークがつながっていくことが議論の楽しさに向かうのか、よりよい解決に向かうのか、そんなことも見通しながらフリースークに参加できるようになってきたのではないのでしょうか。さらに、例えば、創る科の「比べる活動」では、比べることによって何が分かるのかを意識しながら、比べる活動の手順を理解し、その比べる活動を別の場面でも使えることも経験しながら、比べることのよさを実感し、今や、使える道具になっているのではないかと思います。このような学びは、全国の小学校の中でも、-p 先頭をきって、附属山口小学校が行ってきているものです。したがって、みなさんにはこの6年間の附属山口小学校の学びのなかで、「わかったこと」「できること」が増えただけではなく、みなさんにとって見えづらいところでもしっかりと基礎となる力がついていることは間違いありません。それは、附属山口小学校の先生方と私が保証します。

私は、「今の学びに一生懸命取り組むか否かは、10年後の自分自身の成長や成果に影響してくる」と考えています。このことは大学生や大学院生にも伝え続けています。次のステージである中学校でも、「なりたい自分・やりたいこと見つけ」を続け、10年後の自分のために、みなさんの心身と知を成長させる努力を惜しまず、自分らしさを大切に学校生活をおくっていかれることを期待して、みなさんへのエールとします。

保護者のみなさま、本日はお子さまのご卒業、誠にありがとうございます。この2年間、コロナの状況に左右されご心配な日々を過ごされる中、待ち望まれていた今日の日を迎えられ、感慨もひとしおのことと拝察いたします。

お子さまの入学から今日までの家庭生活と学校生活を振り返られ、数多くの思い出が心の中を去来しておいでのことと思います。本校の児童が今日こうして巣立つことができますのは、保護者のみなさま方が、どのようなときにも変わることなく本校の教育に深いご理解とご協力をいただいた賜です。ここに衷心より厚くお礼申し上げます。今後とも、附属山口小学校の教育に対しまして、これまで以上の温かいご理解とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、今日まで限りない愛情と熱意をもって指導にあられた校長先生をはじめ、本校教職員のみなさま方、また常にやさしく見守ってこられたご家族のみなさま方、そしてご支援頂いた地域のみなさま方に、心よりお礼申し上げまして、告辞とさせていただきます。

令和4年3月15日 山口大学教育学部 学部長 鷹岡 亮

祝 辞

本日の卒業証書授与式にあたり、PTAを代表いたしまして、一言お祝いの言葉を申し上げます。

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうでございます。そして、保護者の皆さま、本日は誠におめでとうでございます。また、6年間の長きに渡りPTAの活動に対し、ご理解とご協力を頂きありがとうございました。

子どもたちを想い、一緒に悩み、喜び、この6年間の中には様々なご苦勞と、大きな感動があったことと思います。子どもたちのおかげで私たち大人も、より成長できたのではないのでしょうか。

お子様が卒業されましても、今後は地域の一員として、これからも、一緒に子どもたちを見守っていただきますよう、お願い申し上げます。

さて、本日はみなさんに伝えたいことが、3つあります。

まず一つ。仲間を大切にしてください。仲がいい友達だけでなく、この場にいる同級生や知り合った方すべてが仲間です。この先、中学、高校と進むにつれ、将来や人生について考えるようになります。時には、壁にぶつかることもあるでしょう。そんな時、みなさんを救ってくれるのは、間違いなく、ご両親や仲間です。一緒に悩み、相談に乗ってくれる人が、ここに沢山いることを忘れないでください。

次に、「将来の夢」をもってください。「夢」をもつことで、自分がやるべきこと、進むべき道がはっきりと見えてきます。若い内に明確な「夢」をもつことは、それだけ、叶えるための時間があるということになります。ぜひ、この機会に、親子で話し合ってみてください。

最後に、本を読んでください。「読書」というと、退屈に聞こえたり、めんどろに思う方もいるかもしれませんが、これから皆さんが人生の中で、大きな「夢」を描いて、それを実現していくためには、「読書」は信じられないほど、皆さんにとって大きなチカラとなります。夢を実現すること、それは、学校の成績だけではありません。「夢」を叶えるために大切なのは、それは、皆さんの「夢を描くチカラ」です。

「夢」を描き、持ち続け、そして人生で具体的に実現してゆく、その“夢のチカラ”を養い、育ててくれるのが「読書」です。本からは、日常生活だけではえられないような、たくさん知識、知恵をもらうことができます。この先、みなさんが悩んだとき、本が導いてくれることでしょう。

みなさんは、お家の方はもちろん、先生方、地域のおじさんやおばさん、近所のおじいちゃんやおばあちゃん、そして、今日、この会場にいる全ての人から愛されています。私たち大人はみんな、皆さんが大好きです。どうか自分に誇りを持って、素敵な中学生になってください。

最後になりましたが、本日まで、深い愛情を持って、子どもたち一人ひとりに、ご指導くださいました、吉鶴校長先生をはじめ、諸先生方に敬意を表しますと共に、心より感謝申し上げます。そして、卒業生のみなさんの輝ける未来と、ご来場の皆さまのご多幸を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。本日はおめでとうございました。

令和4年3月15日 PTA会長 重見 秀和 代読 PTA副会長 椋木 貴洋